

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

今年、やけにミヨウガの生りが悪い。秋ミヨウガを毎年楽しみしているが、背丈は今まで見たことがないほどの高さになってい

るが、今年はずすかにしか出ない。全国から7月下旬からの高温、雨不足が影響原因か不作の情報が全国から寄せられている。これも温暖化の影響なのだろうか。

9月中旬、アメリカ・ニューヨークの国連本部で77カ国の首脳らが出席して、深刻さを増す温暖化に対応する「気象行動サミット」が開催された。小泉進次郎環境大臣の参加や将来を担う世代を代表して演説したスウェーデンの少女グレタ・トウンベリさんの「私たちは絶滅に差し掛かっているのに、あな

たたちが話すのは金と永遠の経済成長というおとぎ話だけ」などで注目された。また国連の気候変動に関する政府間パネルが公表した報告書では、地球温暖化が進むと今世紀末に海面が1メートル以上、世界の氷河は40%以上失われ、生態系に深刻な被害が生じ、高潮や巨大台風による災害リスクが増すと警告した。また今世紀末までに世界全体で、漁獲可能な魚の量は最大24%減少、世界の氷河は最大47%減少、特に、スキー産業に大きな打撃

を与えたとの内容だ。9月末に気象庁は関東甲信地方の今冬の予報を発表。長野地方気象台によると、北からの寒気の南下が弱く、県内は気温が平年並みか高い暖冬傾向、北部山沿いの降雪量は、平

者が多い事も事実だ。既に多くの観光現場では、冬以外の誘客事業に取り組みを強化している各種取り組みの成果を期待して行きたい。

全国から魚介類への影響が伝わってくる、サンマの不漁、山口・萩沖のイカの不漁によるイベントの中止が相次いでいる。「海」が無性に気になり日本海の潮風を感じたくて道の駅「マリンドリーム能生」を訪ねた。能生漁港などから水揚げされる鮮度自慢なカニを販売する「かにや横丁」

観光業の衰退が懸念される温暖化が深刻だ

年並みか少なく、10月の天気は数日の周期で変わり、11月・12月は平年と同様に晴れの日が多いとの見込み内容だ。今年の夏は、天候の影響を受けて、思うような営業成績が出ず、冬に期待する関係



昔、国道8号沿線に点在した「カニ販売所」、今は道の駅に集約し観光拠点に

や「鮮魚センター」。肌で感じた機会でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)